

平成29年度大学院法学研究科博士課程後期課程一般入試 出題の意図

【外国語】

一般入試	英語	問題	筆答試験では大学外に著作権がある外国語文献のみが使われますので、著作権法の規定により本サイトでは表示できません。ただし教務係にて閲覧することは可能です。
		出題の意図	<p>第1問 法学・政治学に関する英語文献を正確に理解し、それを日本語して表現することのできる基礎的能力を有しているかを問うものである。具体的には、主語、述語等の文章構造および主文、副文の対応関係を正しく把握しているか、文脈に適した訳語を選択しているか、そして日本語として分かりやすく表現しているか、について評価し、採点を行った。</p> <p>第2問 本問は、イギリスの司法省が、刑事司法制度の改革のため、自国の刑事司法制度に関する分析・提言を行った報告書の抜粋である。議会向けに書かれた、刑事司法制度という国家システムの問題点を指摘する英文であり、法学政治学の基本的な学習の基礎となる一般的な内容であり、全訳により構文や訳語の正確性を測ることを意図している。</p>
	ドイツ語	問題	筆答試験では大学外に著作権がある外国語文献のみが使われますので、著作権法の規定により本サイトでは表示できません。ただし教務係にて閲覧することは可能です。
		出題の意図	法学・政治学に関するドイツ語の文章の和訳を通じて、名詞の性・数・格といった基礎的な文法事項や、基本的語彙についての理解を問うものである。
進学試験	英語	問題	筆答試験では大学外に著作権がある外国語文献のみが使われますので、著作権法の規定により本サイトでは表示できません。ただし教務係にて閲覧することは可能です。
		出題の意図	<p>第1問 本問では、専攻分野に拘らず、法学・政治学の研究を進めていく上で、最低限の前提となる英文読解力およびそれを分かりやすい正確な日本語で表現する能力を問うた。原文は、刑事司法制度の目的について述べたものであり、社会科学と規範理論の交錯領域に関わるものであるが、本テーマに関する前提知識がなくとも十分に読み解ける内容である。</p> <p>第2問 ナショナリズムや国民国家の歴史を扱っている意味で、第一問と比べて、法学的というよりは国際政治的な内容であるが、特定の専門領域に特化した内容ではなく、広く、法学・政治学の研究者を目指すうえで備わる一般教養に根差した内容である。最後のほうでMazzinian nationalismといった独特な語句も出てきて、特段注を付してはいないが、これも世界史に関する一般教養の枠内で推測可能と思われる。</p>